

科目名	生涯学習	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Lifelong Learning	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	いちばら みつまさ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	市原 光 匡	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	生涯学習の考え方を理解し、生涯学習社会のあり方や、その実現のために必要な施策について議論する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習について議論する基盤となる生涯学習の概念や理念をふまえ、説明できること。 2. 人間の発達と学習との関係を明らかにし、さまざまに行われている人々の学習活動について理解し、説明できること。 3. 人々の学習活動を支援する諸制度について理解し、その望ましいあり方について主張できること。 			
授業概要	今日「生涯学習」という概念そのものは特に目新しいものではない。しかし、目指されるべき生涯学習社会はいまだ到来しているとはいえない。したがってこの授業では、生涯学習社会の実現という観点から、生涯学習の概念・理念、学習活動の理解、生涯学習の支援の三点を軸に生涯学習社会実現への課題を検討していきたい。			
授業計画				
第1回	生涯学習とは？			
第2回	生涯学習の概念／生涯学習の意味と意義（学校教育・社会教育）			
第3回	生涯学習論の系譜／①生涯学習論の歴史的展開（UNESCO、OECD）			
第4回	生涯学習論の系譜／②日本の生涯学習推進政策（臨時教育審議会）			
第5回	ライフサイクルと生涯学習／①人間の発達と学習（生涯発達）			
第6回	ライフサイクルと生涯学習／②成人するまでの学習（認知発達）			
第7回	ライフサイクルと生涯学習／③成人期の学習（ペダゴジーとアンドラゴジー）			
第8回	ライフサイクルと生涯学習／④高齢期の学習（高齢期の学習の意義）			
第9回	生涯学習の支援システム／①さまざまな学習機会（身の回りの学習機会）			
第10回	生涯学習の支援システム／②生涯学習の施設（身の回りの生涯学習施設）			
第11回	生涯学習の支援システム／③生涯学習と学校（学校の役割）			
第12回	生涯学習の支援システム／④生涯学習の支援者（生涯学習に関わる人々の範囲や役割）			
第13回	生涯学習の支援システム／⑤学習成果の評価・認証と活用（学習の成果）			
第14回	生涯学習の支援システム／⑥生涯学習支援における行政の役割（教育行政機構）			
第15回	授業のまとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	授業の復習（1.5時間程度）とともに、キーワードとして掲げる事項（授業計画のうちカッコで示しているもの）について予習しておくこと（1.5時間程度）。			
履修条件 受講のルール	特になし。			
テキスト	テキストは特に指定しない。なお、授業のレジュメ（要約）のプリントを配布する。			
参考文献・資料	香川正弘・鈴木真理・佐々木英和〔編〕『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房、2008。			
成績評価の方法	平常点30%、定期試験70%の比率で評価する。 平常点については、受講態度・話し合い等への参加状況を勘案する。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受ける			

	<p>ことができない。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週火・木曜日 13:00～14:30</p>
<p>成績評価基準</p>	<p>秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)</p>
<p>実務経験及び実務を活かした授業内容</p>	
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>学生にははじめて耳にする語句や概念が多く登場すると思われる。それらを理解することももちろん重要だが、それよりも生涯学習社会のあり方やその実現のための方策を議論していくことに重点を置く。授業でも学生同士議論する機会を多く設けるので、積極的な参加を期待している。</p>